令和元年８月５日

富士見市議会議長　篠田　剛　様

総務常任委員会
委員長　今成　優太

所管事務調査(行政視察)報告書

本委員会は、所管事務調査として先進地の視察を行い、調査を終了したので富士見市議会会議規則第１０９条の規定により報告します。

記

１　実施期間　令和元年７月２３日(火)～２４日(水)

２　視察地及び調査事項
７月２３日　大阪府八尾市
「政策提言への取り組みについて（やお若者ＯＴＳ会議)」
議会だよりの取り組みについて（高校生との座談会)」
７月２４日　静岡県菊川市
「こども議会について」
「議会だよりリニューアルについて」

３　出席委員　委員長　今成　優太　　副委員長　川畑　勝弘
委　員　佐野　正幸　　委　員　加賀　奈々恵
委　員　尾崎　孝好　　委　員　斉藤　隆浩
欠席委員　委　員　津波　信子

４　随行職員　議会事務局主任　秦　麻里奈
同行職員　総合政策部長　水口　知詩

（調査結果報告は、別紙とする。）

別紙

５－１　大阪府八尾市

＜市の概要＞

八尾市は、大阪府の中央部の東寄りに位置し、西は大阪市に、北は東大阪市に、南は大和川を境として松原、藤井寺両市と東南部の柏原市に、東は生駒山地を境にして奈良県と隣接している。市内には史跡が多く、古墳時代の遺跡として国の史跡指定を受けている心合寺山古墳をはじめ、横穴式円墳など約２５０基の古墳が存在している。近世に入り、旧大和川の付け替えによる舟運と新田開発により東大阪随一の市街となった。八尾の地名は「矢負い」の転化とも「八つ尾の鶯」の生息からともいわれている。

昭和２３年には、八尾、龍華、久宝寺、大正、西郡の５ヵ町が合併して市制を施行した。また、同３０年に河内市福万寺、上之島地区と高安、南高安、曙川の各町村を、 同３２年に志紀町を合併、同３９年には松原市北若林地区を編入した。この当時から同４６年まで人口が年間１万人も増加する人口急増都市となったが、その後同５３年頃から人口 増加も次第に鈍化し現在は減少に転じている。平成３０年４月に中核市に移行し、住宅と産業を併せ持つ大阪の近郊都市として発展しながら今日に至る。

市の面積は、４１．７２　Km²。人口は２６６，５９３人（平成３１年４月現在)、平成３１年度一般会計予算の総額は、９９，２３１，４１６千円（骨格予算）である。

「政策提言への取組みについて（やお若者ＯＴＳ会議)」

（１）調査事項の概要・経過・特徴等について

八尾市の人口は平成３年をピークに、その後は微減傾向が続いている。「八尾市人口ビジョン・総合戦略」策定の際の市民アンケートにより、若者の定住意向が低いことが判明した。担当課は若者の定住意向の低さが人口減少の要因の一つにつながっていると分析している。

そのような中、平成２８年度に、若者が「住みたい、住みつづけたい」と思える魅力あるまちの実現を目的として、やお若者ＯＴＳ会議(以下「ＯＴＳ会議」)を開催した。「ＯＴＳ」とは「おもろい! たのしい!サイコー!」の略で、若者が主体的に八尾を盛り上げる企画を提案でき、「想いを実現できるまち」として若者から選ばれるまちを目指すこととして事業を行った。

若者の募集要項は、市内在住、在勤、在学の概ね１８歳以上２９歳以下の人。平成２８年度、会議を立ち上げるに際して、市民から２０名程度募集したところ、５０ 名の若者から応募があり５０名全員が参画することになった。また、庁内からも若手職員１５名が集い、総勢６５名の会議体となった。

会議は平成２８年１１月から平成２９年３月まで月１回ペースで５回開催。最終回に若者目線の魅力ある事業を提案することをゴールとして設定した。

平成２９年度は、平成２８年度の締めくくりとして提案事業発表会を開催し、若者視点の取り組みやアイデアについて事業提案がなされ、それらの中から、いくつかの事業について、実際に実現をめざす年として取り組んだ。

以下、経過について記す。

〇平成２８年度

１１月から翌年３月まで５回の会議を開催。７グループに分かれて若者目線での政策を提案。結果、７つの事業について事業提案が成される。

〇平成２９年度

前年度に提案された７事業のうち、費用の面で実現が困難な１事業を除く６事業について実現に向けた取り組みを開始。４グループの運営を事業者（コンサルティング会社）に委託。２グループの運営については政策推進課にて実施。結果、１グループ（八尾の特産品などを活かしたイベントの取り組み）が平成２９年度で事業実現を行い取り組みは終了。

〇平成３０年度

継続の５グループが引き続き事業実現に取り組む。全グループにおいて運営を事業者に委託。

以下は平成２８年度に若者会議から事業提案され、実現した事業の概要。

◇八尾狩り ~YAO Hunting Festival~

八尾の様々な特産物(農産物や工業製品等様々な八尾の特産物を含む)を狩る(収穫する)ことができるイベント「八尾狩り」を平成２９年度に開催。

◇チャリっちゃお！～八尾のまちに溶け込むレンタサイクルプロジェクト

自転車の 前カゴ等の改造や、変わり種自転車等の導入を検討・調整するとともに、サイクリング観光ルートの作成等を平成２９年度に実施。

（２）具体的対応策、取組状況について

予算について、平成２８年度は地方創生加速化により、全額国費を充当。平成２９、３０年度は地方創生交付金により１/２国費、１/２八尾市負担で実施。今後の活動予定としては、若者会議としての活動は平成３０年度末で一旦区切りとなるが、大学などとの連携により学生参画による取り組みを今後も継続していく予定。

（３）効果と課題

課題としては、提案された事業が想定したよりも奇抜なものにならず、結果として「行政でもできる」ものに収まってしまったということが挙げられる。若者の発想で抜本的に八尾市をＰＲできる施策が提案できたのではないかという反省がある。

しかし、結果として若者会議参加メンバーと八尾市が若者会議後も関わり続けることで、若い世代の人材育成という当初の目的以外の効果も出た。例えば、八尾市を盛り上げる市民グループから参加していた複数名のメンバーは、若者会議終了後いっそう活発に活動するようになった。

また、八尾市職員として採用されたメンバーが１名、他の自治体職員となったメンバーが１名おり、若者の行政の仕事・業務に対する理解や興味を抱いてもらうきっかけとなり、人材育成という効果が出た。

（４）まとめ

若い世代の定住意向を高めるという目的を持って、積極的に若者に事業を提案してもらおうという八尾市の姿勢は参考になった。また、若者の自由な発想は必ずしも実現の可能性と一致しないことから、事業者へ委託することで実現の可能性を高め実際の事業に取り組んだことも参考になる。

若手の市の職員が一般メンバーと一緒になって取り組んだことも、人材育成という効果が出せた一助となっていると考える。

八尾市の場合は、国の補助金を活用した３カ年の計画だが、本市においても若者の定住意識を高めるような市との協働事業を検討する余地がある。

「議会だよりの取り組みについて（高校生との座談会）」

（１）調査事項の概要・経過・特徴等について

八尾市の市議会だよりは、以前はペーパーマガジンで文字ばかりという状況であり、市民から「見えづらい」との声が多かった。それを受けて、各派代表者会議において、「質問に顔写真」「個人の採決態度」を掲載し、紙面の見難さの改善をすべきという意見が出された。

このような代表者会議の意見を受けて、議会事務局は専門家へ依頼して議会だよりのリニューアルに取り掛かかり、クリエイティブディレクターの吉田順年氏に講演、指導、助言を仰ぎ、新フォーマットを作成した。

新フォーマットのリニューアルに使用したＤＴＰソフトは「インデザイン」である。「インデザイン」導入に伴い、パソコン環境の整備が必要となった。平成２３年１２月定例会号よりリニューアル。リニューアルに伴う初期経費は７２９，１３１円である。

平成２９年度より、「市議会×高校生プロジェクト」として高校生とのコラボ企画を開始し、市議会だよりの表紙を高校生とコラボレーションした。

平成３０年度３月定例会号において、特集記事として高校生１００人に議会や議員に関するアンケートを行いランキング形式にしたＱ＆Ａを掲載した。高校生からもらった作品や活動写真を議会だよりの表紙に掲載することで、地域の高校生とのつながりが生まれた。

平成３０年１２月には、主権者教育の一環という目的、また八尾市議会だよりをより見やすいものにするという目的を持って、「Meet and Greet with 八尾市議会」を開催。議会だより編集委員会である議員７名と市内５高校の学生２４名が参加し「議会の広報について」をテーマに座談会を開催した。

（２）具体的対応策、取組状況について

「Meet and Greet with 八尾市議会」座談会では「議会の広報について」をテーマに、どうやったら八尾市議会だよりがもっとよくなるか？をテーマに議員と高校生が話し合った。

高校生が緊張せず話しやすい環境を整えるため、スピーカーで音楽を流した上で、お菓子とお茶を用意しカフェのような雰囲気にするなどの工夫を行った。また、ポストイットと模造紙を用意して発言したことが分かりやすいような工夫を行った。

グループごとに議会だよりを実際に見ながら意見交換をした後に、より良い議会だよりにする方策をそれぞれ発表した。発表された意見の中には、「市議会自体がそもそも身近ではない」という辛辣な意見なものから、「議会だよりというタイトルだと手に取りづらいからタイトルから見直すべき」というユニークな意見まであった。

参加した多くの高校生からは「楽しく、良い経験になった。市議会が少し身近になった」という感想が出た。

「Meet and Greet with 八尾市議会」座談会の様子は議会だよりに掲載。その後発行した議会だよりでも、座談会で高校生から意見をもらった点をどのように変えたのかを掲載した。

今後は議会だよりについての座談会ではなく、他のテーマや別の角度の視点での高校生との交流を検討している。検討の段階ではあるが、高校の文化祭に議員が出向くなどのアイデアもある。

（３）効果と課題

平成２３年の議会だよりのリニューアルは、市民から見やすくなったとの声が聞かれた。また、平成２９年度からの高校生とのコラボ企画については、「知り合いが載っているので議会だよりを見るようになった」という若い世代の市民からの声や、「文化部活動の発表の場が増えた」という先生や生徒からの喜びの声があった。課題としては、今後どのように高校生との接点を持っていくかということが挙げられる。

（４）まとめ

平成２３年に議会だよりの紙面をリニューアルしたことで、市民から見て分かりやすい読みやすい議会だよりを実現することができた。リニューアルに際し、当初のデザインを専門家に依頼したことも分かりやすいデザインができている要因となっている。

また、平成２９年からの高校生とのコラボ企画も、若い世代に対して市議会をより身近な存在として感じてもらえる一助となっている。高校生との座談会も、話しやすい雰囲気づくりに工夫を凝らすことで、自由で活発な意見交換ができているので、本市でも今後高校生との意見交換を行う際に参考とするべきである。

本市の市議会だよりでは、一度、印刷会社に原稿を入稿し、デザインとして戻ってきたものを確認するという方法を取っているが、八尾市の場合は、市議会がデザインしたものを直接、印刷会社に入稿するという方法を取っている。この方法は、作業の負担軽減や経費削減という観点から参考になる。

本市に導入する際の課題としては、八尾市の場合、毎号議会だよりのデザインの多くを事務局が担当しているので、議会事務局と議会との役割分担について検討する必要がある。しかし、議会だよりを見やすい紙面に変えることで、地域の高校生ともつながり「開かれた分かりやすい議会」「主権者教育」へとつながった八尾市の取り組みは大変参考になるものであり、本市においても、見やすい議会だよりの改革が急務であると考える。

５―２ 静岡県菊川市

＜市の概要＞

一級河川「菊川」の中流域に広がる菊川市は、静岡県の西部に位置し、遠州と信州を結ぶ「塩の道」など、古くから南北交通の要所として栄えた。明治２２年にはＪＲ東海道本線菊川駅の開設により、駅前周辺や市南部を中心に市街地が広がり、また近年は東名菊川インターチェンジ周辺の区画整理事業により新たな商業区域が形成され、商業のまちとして発展を続けている。温暖な気候にも恵まれ、市の東部には明治初頭の大規模開拓による「日本一の大茶園」牧之原台地が広がり、「お茶のまち菊川」として広く知られている。

市の面積は９４．１９Km²で、人口は４８，４７０人（令和元年６月末現在）。平成３１年度一般会計当初予算は、１９，４０５，０００千円である。

「こども議会について」

（１） 調査事項の概要・経過・特徴等について

菊川市の未来を担う子どもたちが、議会や市政に関心をもってもらうことや、将来の市議会議員及び有権者の教育を図ることが期待でき、また、子どもが参加することにより、保護者等にも同じ効果がきたいされるのではとの見解から、平成２８年度より「菊川市こども議会」を毎年開催している。

参加対象者は、市内小学校６年生の各学級１名・学校組合立牧之原小学校６年生１名、市議会議員・市長・副市長・教育長・その他執行部（部長級）。

実施方法は以下のとおり。

① こども議会の実施方法は、菊川市議会の議会運営方法に基づき行う。
② 参加児童を４グループに分けて実施する。
③ 議長はグループから１名選出し、別のグループの進行を行う。（議長は事務局で選出する。）
④ 発言書は１，２００字程度とし、５分程度の発表を登壇し行う。
⑤ グループの発表が終了した時点で、市長が講評を行う。
⑥ 市長は講評の際に、一人ずつ質問を行う。
⑦ こども議員は、自席で市長の質問に答える。
⑧ 全体の発表が終了後、教育長が全体の講評を行う。

（２）具体的対応策、取組状況について

参加児童の実績は、参加児童の実績は、平成２８年（初年度）１７名、平成２９年１５名、平成３０年１６名、直近の令和元年は１９人となっている。

（３）効果と課題

参加した児童の満足度は、満足している７５％、概ね満足している２５％と高く、傍聴者や小学校のアンケート結果でも評価は高い（平成３０年実施アンケート結果）。

一方で、参加対象を中学生や高校生にも拡大したいとの意見が市議会内からはあるが、生徒の多忙等の理由に因りなかなか進展できないとの課題がある。

（４）まとめ

こども議会は、実際に子どもたちが議会を体験するとともに、その保護者もその姿を傍聴することでの主権者教育等に繋がる有効な方法といえる。

本市では、希望があった一部の小学校３年生の市庁舎・議場見学を行っているほか、平成３０年より総務常任委員会において県立富士見高等学校の生徒との意見交換会を行っている。参加してもらう子どもの対象は菊川市のように小学生が最適なのか、それとも中学生や高校生の方がより適しているのかの議論も含めて、こども議会の開催も検討することが必要ではないか。

「議会だよりリニューアルについて」

（１）調査事項の概要・経過・特徴等について

より手に取ってもらい読んでもらえる議会だよりとし、議会の活動、議員の活動を市民にわかりやすく伝えることで、市民との距離を縮め、開かれた議会を目指す。また、議会活性化への取り組み、誰にでもわかりやすく親しみやすい広報の両立を図ることを目的として、議会だよりのリニューアルに取り組むこととなった。

最初は平成２６年７月に、先進自治体（東京都あきる野市）を視察。その後、議会だよりのアンケート調査を市役所ロビーにて実施。平成２７年１０月、編集委員会に業者を招き、具体的なリニューアル内容を協議していった。平成２８年５月１９日発行号からリニューアルした。

（２）具体的対応策、取組状況について

以下のとおり、議会だよりのリニューアルを行った。

① 全体のページ数・紙質・色刷りを変更
（１２ページ・表紙と裏表紙は４色、他は２色 ⇒１６ページ・フルカラー）

② タイトルを変更（きくがわ議会だより⇒菊川市議会だより 議会のひろば）

③ 表紙を変更（タイトル・目次・季節のイベント写真 ⇒ すっきりとしたデザイン・特集タイトル・目次・市内の隠れた観光〔穴場〕スポットの写真）

④ 巻頭の特集を新設（テーマを決めて市民との対話形式でインタビューを掲載）

⑤ 一般質問ページを変更（顔写真無し・テーマ数の制限無し・テーマごとに

質問と回答をまとめた形式・イラストや写真はスペース次第 ⇒ 顔写真を入れる・テーマは１つ・質問と回答は１問１答形式・必ずイラストや写真を入れる）

⑥ みんなの声を新設（市民の意見を募集し掲載する）

⑦ 議会活動レポートを変更（委員会活動報告・議会報告会・政策討論会等をスペースに応じて掲載 ⇒ 委員会や議会報告会・視察対応等について写真を付けてレポート風にまとめる）

⑧ 背表紙を変更（活動報告・傍聴・映像配信・次回の議会の予定・編集後記 ⇒ きかせてママの声・あなたもできるこんなコト・次回の議会の予定・表紙の写真の説明・編集後記）

＜その他＞

○リニューアルに伴う費用の増減（発行部数１５，０００部）

〔リニューアル前〕　１，００２，８４４円（税込）
単価１７．１７円（税込）

〔リニューアル後〕　１，１１８，８８０円（税込）
単価１８．８９円（税込）

＊１１６，０３６円（税込）の増　単価１．７３円（税込）の増。

○市内金融機関・病院など待合室のある所へファイルを設置し、議員が担当を決めて毎回届ける工夫もしている。

（３）効果と課題

リニューアル後のアンケート結果では、読みやすくなったとの意見が８０件あった一方で、リニューアルに気が付いていないとの意見が２１９件あった。４０歳代では読みやすくなったとの意見が多かった。

今後の課題としては、担当者が変更になった後の継続性や、表紙についてより目に留まるためのアイデア、みんなの声をいただくための工夫、定期的な見直しの必要性、広報公聴委員会の設置の検討などがある。

（４）まとめ

本市の市議会だよりはタブロイド版で、新聞と同じような形式で読みやすいという意見がある一方、文字が多すぎる等の意見もあり、リニューアルについての検討を始めている。

見た目のデザインの工夫はもちろんながら、テーマを決めて市民との対話形式でインタビューする特集記事を掲載するなど、「読みたくなる」ための工夫がなされている今回の菊川市議会の取り組みはとても参考になった。

大阪府八尾市の議会だよりについての視察と同様、本市においても、見やすい議会だよりの改革が急務であると考える。